

平成 27 年度「学」「社」連携事業

「世界の子どもたちに楽器をおくるプロジェクト」について活動報告

H27 年度、教育委員会生涯学習課青少年育成係「学」「社」連携事業として、市内の中学校 4 校の取り組み「世界の子どもたちに楽器をおくるプロジェクト」の活動、鍵盤ハーモニカを寄贈先の一つであるネパールへ無事に届けることが出来たことをご報告いたします。

初めての試みにもかかわらず、市内中学校の校長先生をはじめ、地域連携担当の先生方にご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございました。また、新潟から東京までの楽器運送費用を全面的に協力して下さいましたわたじん楽器新潟店様のご厚意には、心より感謝いたしております。ありがとうございました。

活動の窓口になりました NPO 法人国境なき楽団と、担当の私は中学校の卒業式までに間に合う様に報告が出来、ほっとしているところでございます。

今回集めた鍵盤ハーモニカは、タンザニア、ネパール、フィリピンに振り分けられることに決まりました。(この寄贈先の決定につきましては、各国からの要請を JICA が振り分けを行い、決定しています)

そのうちのネパールにつきましては、2016 年 2 月 12 日 (金) にネパール連邦民主共和国カーブレ・パランチョーク郡ドゥリケルの公立小学校へ NPO 法人国境なき楽団が胎内市の中学生が集めてくれた鍵盤ハーモニカを含む楽器を持って、「青空教室 at ネパール」と題してワークショップと交流会を行って来ました。

この学校は JICA 青年海外協力隊の國友達郎隊員が小学校教員として派遣されている学校です。おかげで今回の活動がスムーズに運ぶことができました。

それでは、ネパールの子どもたちを取り巻く環境のほんの一部ではありますが報告とワークショップの様子を報告させていただきます。

ネパール活動報告 2016 国境なき楽団事務局によりますと、報告書の「訪問地情報」に記載されている児童生徒数について、ワークショップに参加した人数は、幼稚園児を含めると 116 人でした。しかし、学校に登録している子どもの人数は 377 人と人数に大幅な違いがあります。これは、毎日学校に通えない子どもや、事情により学校に通えなくなった子どもがいるためです。

今回訪問した学校も貧困家庭の生徒が少なからずいて、昼食を食べられない生徒も多いようです。今回は、このような状況の子どもたちにプレゼントすることになりました。

ワークショップの様子を見ますと、ボランティアリーダーの指導のもと、初めて見る楽器に目を輝かせている子どもたち。各パートに分かれて練習をしています。学校の先生によりますと、前日から子どもたちは興奮気味で、授業どころではなかったそうです。とても楽しみにしていた様子です。嬉しいことです。

お互い遠い国の会ったことのない、名前も知らない間柄ですが、「相手が「してほしい」と思っていることを「してあげる」それがお互いの喜びになること」このゴールデンルールを体験できたことは、事業の目的である「胎内市のもったいない運動に参加することで市制 10 周年の記憶に残る活動」の一つになったのではないかと考えています。

今となっては不要な楽器も、持ち主が変わることで再び息を吹き返し、海を越えた国や地域の同じ年頃の子どもたちに喜んでもらえたこと、自分が関わった活動で喜んでくれた人がいるという事実は、この活動に参加した中学生がこれからの生活を送るうえで一つの自信に繋げてもらえたら嬉しいと思っています。

今回の活動ポイントは、寄贈するだけに終わらせずに子どもたちの様子を報告するところまでを事業と捉え、取り組ませて頂いたところです。そのことによって、得られたメリットが 2 つありました。

1 つ目は、先ほどのゴールデンルールの体験です。2 つ目は、鍵盤ハーモニカの状態の良い物を寄贈出来たことです。

音が全て鳴ること、ホースがあること、汚れていないこと、ケースも破損していないことなど。このようにいくつかの基準を設けました。集める中学生のみなさんは大変だったと思います。勿論、集まる台数も少なくなるでしょう。しかし、結果として、状態の良いものを寄贈出来て、喜んでもらえた訳です。

ともすると、ボランティア活動での寄贈は、不用品の最終到着場所になりかねないので、そうさせない為にも基準を設けて集めたことはとても良かったと思っています。

「自分がされて嫌なことは、人にもしてはいけない」これについても、私たちの生活全般においてのマナーとして中学生のみなさんには是非、覚えておいていただきたいと思っています。

2 時間半のワークショップを終え、校長先生からのあいさつで、これからは、音楽の時間をもちたいとの言葉があったとあります。ここにもこの活動に参加できて良かったと感じています。

今回の活動の窓口であり、胎内市の中学生と JICA の懸け橋となった NPO 法人国境なき楽団では、「今回のように学校や自治体が参加協力してくれた事は全国的にも初めてのことで非常に感謝しています。毎年 JICA から鍵盤ハーモニカの要望がありますので継続して活動していただくと非常に有難いです。」とのことです。

最後に、NPO 法人国境なき楽団の代表理事で、今回も現地でワークショップをされました庄野真代さんから胎内市の中学校 4 校の皆さんにお礼のメッセージが届いています。

新潟から心のこもった楽器を送って下さった皆様、本当にありがとうございました。音楽の授業が無く、楽器というものに初めて触る子どもたちがたくさんいるネパールで、皆様からの温かな気持ちは、遠い国の子どもたちにきちんと伝わりました。

きっと今日も楽器たちは、子どもたちの未来や夢を奏でているとおもいます。ありがとうございました。

NPO 法人国境なき楽団代表理事 庄野真代

胎内市の「もったいない運動」に参加をし、国際ボランティアを経験したことは中学生のみなさんにとって市制 10 周年の記憶に残る活動になったことと思います。

胎内市教育委員会
生涯学習課 青少年育成係
担当：社会教育指導員 佐久間 洋子

2016年2月20日

特定非営利活動法人 国境なき楽団事務局

澤井康明

NPO 法人国境なき楽団 活動報告

【概要】

ネパール連邦民主共和国カーブレ・パランチョーク郡ドゥリケルにて
2016年2月12日（金） 同地の公立学校を訪問し、日本から持参した
楽器をもちいたワークショップ（音楽教室）を行った。
またその際に使用した楽器はすべて同校に寄贈した。

【訪問地情報】

学校名：Shree Purna Sanjiwani Lankhanamai Higher Secondary School

住所：Dhurikhel-5, Kavrepalanchok 校長：Mr.Rajesh Shrestha

教員数：23名 児童生徒数：377名

独立行政法人国際協力機構（JICA）青年海外協力隊の國友達朗隊員が、
小学校教員として同校に派遣されている。

<学年ごとの生徒数>

プレスクール（幼稚園） 6名

プライマリー（1年生～5年生） 68名

ジュニアハイ（6年生～8年生） 42名

ドゥリケルは、首都カトマンズの東 32km に位置するネワール族を中心とした、
人口1万4000人ほどの古い街。

2015年4月25日と5月12日の余震で家屋倒壊、損傷の被害が出ている。

同校に通う生徒には貧困家庭のものが少なからずいて、昼食を食べられない子供も多い。

【ワークショップ参加数】

鍵盤ハーモニカグループ：30人（5年生・6年生から希望者）

縦笛リコーダーグループ：35人（5年生・6年生から希望者）

パーカッショングループ：プレスクール（幼稚園）6人、1年生5人 2年生14人

歌グループ： 3年生18人 4年生8人

【寄贈楽器数】※新潟県胎内市からの寄贈楽器が含まれています。

鍵盤ハモニカ 30 個

リコーダー40 本

カスタネット 4 個

鈴 4 個

タンバリン 2 個

ギター1 本

【実施内容】

午前 11 時半に同校にマイクロバスで到着。校長室でのご挨拶後、6 年生以下の校舎に移動。

庄野真代代表から生徒への挨拶ののち、日本の楽曲「幸せなら手をたたこう」を演奏。ワークショップの課題曲「きらきら星」を楽器別に分けられたグループ毎に、各ボランティアリーダーが指導を行い、約 20 分後にふたたび集まり全員で合奏した。また、ワークショップ後は、ネパールで活動する歌手・井上想さんによるドゥルパドの詠唱コンサート、子供たちによる民族舞踏の披露が続いた。全体の所要時間は 2 時間半に亘った。

日本からの参加者数は 13 名、現地参加 5 名。

【所感】

完成度はともかくとしても、合奏における集団内でのひとりひとりの役割や責任を感じてくれるような、楽しいワークショップとなった。

校長あいさつで、これからは音楽の時間をもちたいとの言葉が入ったことで、活動の意義を感じた。